

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520357

研究課題名(和文)「移動」の文学表象におけるジェンダーと言語

研究課題名(英文) Gender and Language in Literary Representation

研究代表者

平田 由美 (Hirata, Yumi)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：60153326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本帝国の崩壊後に生じた、植民地からの引揚げや戦地からの復員といった大規模な「祖国」への帰還の物語を読み解くと同時に、「残留」の物語や残留者としての在日朝鮮人による北朝鮮への帰国運動、また、60年代の炭坑地帯における移動労働者や21世紀の非正規雇用の若者と不法移民の物語など、さまざまな小説テキストやドキュメンタリーを取りあげて、植民地主義とポスト植民地主義の時代における移動経験の分析を行った。研究成果の一部は本年(2014年)1月に平凡社から『「帰郷」の物語／「移動」の語り 戦後日本におけるポストコロニアルの想像力』として刊行された。

研究成果の概要(英文)：In this project, we examined various texts that had emerged from the contraction of Imperial Japanese borders and national identity after Japan's defeat in 1945. Positioning these texts in the historical context of north-east Asia in the 20th century, we published a book titled "Narrating Mobilities, Narrating "Home"-comings: Postcolonial imagination in Post-war Japan" (Heibonsha publishers, 2014) as a part of our research achievements. In this book, we had focused not only on the "repatriation" from "Gaichi" to the Japanese "homeland," but also on the repatriation project to North Korea and Koreans left behind in Japan. In the same way, a fiction written in 2008 depicting Japanese job-hoppers and Chinese stowaways drifted to a deserted island was analyzed as well as the essays on labor's mobility in Chikuho mines in 1960s.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：移動と文学 植民地主義 引揚げ・復員 ポストコロニアリズム

## 1. 研究開始当初の背景

G.ブランデスが『十九世紀文学思潮』(1901年)を「移民文学」から起筆したことが象徴するように、近代の文学は「移動」とともに始まった。新天地への希望や失望、望まざる追放と離散、故郷や祖国の喪失、異言語との格闘や異文化社会との葛藤など、「移動」がもたらす自己認識の危機やアイデンティティの変容は現代文学にとって無視することのできない重要なテーマである。

近代の日本文学もこの世界的潮流の埒外にはないが、移動をめぐる文学は帝国主義の時代の一時的な逸脱として例外的に扱われ、「国民文学」の周縁に位置づけられるか、あるいは「不幸な歴史」を語る補助的史料として「歴史の語り」に組み込まれるにすぎなかった。

1990年代以後、欧米のコロニアリズム文学研究に代表される新しい文学研究の刺激を受けて、旧満州、台湾、南洋群島など旧植民地の文学や在日朝鮮人文学を「日本語文学」として対象化する研究が行なわれ、多くの成果をあげるとともに、資料の収集整備やアンソロジーの編纂など研究基盤の構築が進んでいる。

## 2. 研究の目的

従来の移民研究では、「移動」を共同体やエスニシティ集団の移住など「人口移動」として把握し、移動する主体は数量的に計測可能な「マス」として対象化されてきた。しかし、移動する人々の名前や顔が違いうように、同一カテゴリーに分類される移動も、個々の事例はそれぞれに異なる背景と事情を持った相互に取替え不能のものである。

本研究は、それぞれの移動を歴史の中の一回国性のできごととして描き、「個別」性や細部へのこだわりを通して、人間の生を捉えようとする文学テキストの精読を通して、国境や言語を越える行為とそこから生み出される「移動」の文学表象とその可能性を探求す

るとともに、グローバル化として一元的に捉えられてきた国境を越える人の移動を、ジェンダー研究を接合点とする領域横断的で包括的な「移動研究」の対象として据えなおすことを目的とする。

## 3. 研究の方法

社会科学(移民研究・移民政策)と人文科学(移民史研究)とに切断されてきた従来の「移動」をめぐる研究の接合を企図する本研究では、一橋大学の科研プロジェクト「グローバル化の社会学的研究と課題」(代表・伊豫谷登士翁)および大阪大学文学研究科の美術と移動をめぐる科研プロジェクト「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究」(代表・北原恵)との協力体制のもとに、国内外のプロジェクト・メンバーと共同研究を行った。

社会科学研究との協働からは移動=移民という事象を共時的な地球規模の文脈において解明するための理論的枠組について、また、美術史研究からは通史的でジェンダー的な視座と視覚表象との対照を通じた文学表象の分析手法について、それぞれ多大な示唆を与えられた。

## 4. 研究成果

研究成果はプロジェクト・メンバーにより、国内外の学会、シンポジウム、ワークショップなど多くの場で発表されている。成果の一部は下記に記す通りであるが、なかでも『「帰郷」の物語 / 「移動」の語り』は、本課題の土台となった「近代日本における「移動文学」のジェンダー分析」(2007~2009年度科学研究費補助金研究)の研究成果を包含した集大成として刊行されたものである。

その学術的な意義は、「移動」の経験を語る数々のテキストが引揚げ・復員など国民への再統合を語る「帰郷の物語」とは異なって、戦後日本が不可視化してきた、マジョリティとしての「日本国民」の中の亀裂やズレ、わ

れわれの生きる場所が恒常的で連続的な多くの越境によって常に作り変えられつつある重疊的な空間であることの具体的な諸相を開示したところにある。植民地支配の歴史と戦争体験への真の省察を欠いた戦後 70 年という時間に鋭く突き刺さった棘として、「移動」の語りは繰り返し耳を傾けられるべき声なのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

1. 平田由美「殖民地的過去與後殖民的現在及未來」『文化研究』14 輯、台湾国立交通大学(台湾) pp.163-178 (2012)
2. 平田由美「「列女」から「烈女」へ—近代日本の伝記における女性表象—」『タイ国日本研究国際シンポジウム 2010 論文報告書』 pp.151-171 (2011)
3. 平田由美「女の書き物を奪胎する—後藤明生における“父の物語”の創生—」『表現研究』92 号、pp. 33-41 (2010)
4. 平田由美「「引揚げ」物語をめぐるジェンダーと言語—後藤明生における過去の表象—」『日本学』(東国大学校文化学院日本学研究所) 30 輯、pp. 107-134 (2010)
5. HIRATA Yumi, The Narrative apparatus of Modern Literature: The Shifting “Standpoint” of Early Meiji Writers, Michael Bourdaghs ed., The Linguistic Turn in Contemporary Japanese Literary Studies, University of Michigan Press, pp.73-96 (2010)
6. 平田由美「書評・西川祐子著『日記を書くということ』」『女性史学』20 号、pp.162-164 (2010)

[学会発表](計 5 件)

1. HIRATA Yumi, "Colonial Children in Postwar Japan : Displaced Identities

betwixt and between", The Discourses and Memories on Trans-border Movements in Postwar Japan and Beyond, August 29, 2011, Oslo University (NORWAY)

2. 平田由美「《移動》をめぐる文学表象」国際シンポジウム《越境移動與漂流的記憶》、2011 年 1 月 6 日、国立交通大学(台湾)
3. 平田由美「ポストコロニアリズムと《移動》の文学表象」国際シンポジウム《植民地とディアスポラ》、2010 年 12 月 11 日、建国大学アジア・ディアスポラ研究所(韓国)
4. 平田由美「「列女」から「烈女」へ—近代日本の伝記における女性表象—」タイ国日本研究国際シンポジウム 2010、2010 年 10 月 26 日、チュラロンコーン大学(タイ)
5. 平田由美「女の書き物を奪胎する」表現学会全国大会、2010 年 6 月 4 日、お茶の水女子大学

[図書](計 1 件)

伊豫谷登士翁・平田由美編『「帰郷」の物語 / 「移動」の語り—戦後日本におけるポストコロニアルの想像力—』(平凡社、2014 年、333 ページ)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等  
なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

平田由美 (HIRATA YUMI)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60153326